

岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数 / 237 名 (2021.12.7 現在)

編 集 発 行 / 「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL : 090-2604-7918 FAX : 019-653-6447

郵便振替口座 / 02250-1-60580 E-mail / hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage (岩手ホスピスの会通信) http://hospice.sakura.ne.jp/

No. **68**
2022年1月

タオル帽子クリスマスプレゼント



今年も全国 27ヵ所のがん診療連携拠点病院にタオル帽子総数 1,350 個を発送しました。がん治療の主流である「抗がん剤」は、多くのがん患者さんの治療効果をあげていますが、抗がん剤の種類、投与の方法によっては、吐き気・虚脱感・「脱毛」の副作用が予想されます。髪の毛が抜けるということは、想像以上の不安やストレスをとまないと。突然の脱毛であわてないように事前の準備があれば、精神的にもゆとりを持って治療にも前向きに向き合えます。お送りしたタオル帽子で患者さんが少しでも笑顔になっていただけることを、ボランティア一同願っております。

送付先病院一覧

2021年12月(1件50個程度) 病院 27件 総数 1,350 個

- 岩手県** 岩手医科大学附属病院 盛岡友愛病院 孝仁病院 岩手県立胆沢病院
- 秋田県** 秋田赤十字病院 大曲厚生医療センター **宮城県** 大崎市民病院
- 山形県** 山形県立中央病院 **茨城県** 茨城県地域がんセンター
- 栃木県** 佐野厚生病院 **長野県** 諏訪赤十字病院
- 愛知県** 愛知県立中央病院 名古屋医療センター
- 岐阜県** 大垣市民病院 高山赤十字病院 **三重県** 三重大学医学部病院
- 滋賀県** 市立長浜病院
- 京都府** 京都大学医学部附属病院
- 岡山県** 福山市民病院
- 広島県** 広島市立病院 広島大学病院



配送業者へ受け渡し



発送作業の様子

- 山口県** 徳山中央病院
- 大分県** 大分大学医学部附属病院
- 熊本県** 熊本赤十字病院 **宮崎県** 県立宮崎病院
- 沖縄県** 那覇市立病院 沖縄県立八重山病院



第一生命盛岡支社の方々と

今年もタオルのご寄付をいただきました。

内野株式会社、東京海上日動あんしん生命、第一生命盛岡支社、紫波町コスモスの会、川上塗装工業、その他個人の方々よりタオルやタオル帽子をいただきました。深く御礼申し上げます。いただいたタオルとタオル帽子を患者さんのために大切に活用させていただきます。

盛岡二高タオル帽子作製講習会開催

12月17日盛岡市の盛岡第二高等学校でタオル帽子作成講習会が開催され、同校家庭クラブ委員や有志1年生と2年生計29人が、抗がん剤で脱毛した患者さんを支援するタオル帽子作りを体験し、がん患者支援への理解を深めました。同校での作成講習会は今回で5年目となり、当会のタオル帽子作りボランティア10名が指導に当たりました。同校生が作成したタオル帽子は、ボランティアの方たちの手直しの後、抗がん剤の副作用で脱毛に悩む患者さんに届けられます。



岩手ホスピスの会 悩む患者さんを思い、(川守田裕司代表)は心を込めてタオル帽子17日、盛岡市上ノ橋町を作った。の盛岡二高(小原貴人 同会は2008年から、がん患者のための活動を開始。これまでタオル帽子作製講習会 約10万5千個の帽子を作った。参加した生徒たちは、抗がん剤の副作用で脱毛に悩む患者さんに届けられます。



ボランティアの指導を受けながらタオル帽子を作る盛岡二高の生徒たち

最初に取り上げた岩瀬(1年)は「得意な縫いでがん患者さんの役に立つことができ、うれしかった。これからも作りたい」。去年に続いて2回目の挑戦だった田口(2年)は「細かい作業なので、最初は難しい。誰かの役に立つ

中には、「ボタン付けはお母さん」と言い切る裁縫初心者や、針に糸を通すことができず、「できない」と叫ぶ生徒も。おぼつかない手つきながら、直線縫いで一生懸命タオルに針を刺して、1人1個ずつ帽子を完成させた。

同高での作製講習会は5年目。参加したのは家庭クラブ委員の生徒ら29人。用意された裁断済みのタオルを用い、同会のボランティアの手ほどきを受けながら、帽子づくりを挑んだ。

指導に当たった同会の吉島美樹子事務局長(60)は「二高さんはコロナ禍でも続けてくれている。社会貢献の一つとして、この活動に触れてくれれば」と感謝した。生徒たちが作ったタオル帽子は、クリスマスに合わせて、岩手医大附属病院に届けられるという。

盛岡二高の生徒たち

一針一針心を込めて がん患者用タオル帽子作る

倉本聰さん緊急寄稿**「そしてコージは死んだ」より**

北海道富良野市を舞台にしたテレビ映画「北の国から」等で有名な脚本家の倉本聰さん（富良野市在住）が、日本尊厳死協会機関紙 2021 年 7 月号に「そしてコージは死んだ」と題した緊急寄稿を投稿されていましたが、その内容をお伝えしたいと思います。

倉本さんの側近のスタッフ・通称コージさん（富良野市在住）が肺がんステージ 4 と宣告され、倉本さんはコージさんのがんの痛みを心配し早くから知り合いの緩和ケアの医師に相談していましたが、コージさんの痛みは軽減されず、痛みから自殺を凶ったが死にきれず、最後はベッドの上で呼吸苦にのたうち回り亡くなったということです。

倉本さんは日本尊厳死協会顧問であり、緩和医療を主導している医師と懇意にされているということですが、そのような立場にありながらがん末期の痛みには無力だったということに驚きました。

倉本さんは「今の医学は苦痛からの解放という大きな使命を忘れていないのか」と嘆き、「誰か富良野にホスピスを作ってくれないか！」とも訴えておられました。

また、倉本さんは尊厳死協会の顧問という立場から、亡くなったコージさんにも尊厳死協会への入会を勧めコージさんは会員となりましたが、その会員証はコージさんのがんの苦痛の軽減には何の役にも立たなかったと倉本さんは嘆いておられました。



倉本聰さん

もう一度ホスピス緩和ケア利用について考える

倉本さんは尊厳死協会の会員証が痛みの軽減には何の役にも立たなかったと嘆いておられました。

同様に、岩手ホスピスの会に入っても様々なケースにより緩和ケア、ホスピスケアが利用できない会員さんが今までもこれからもいるかもしれません。

今一度緩和ケア、ホスピスケア利用のためのポイントを確認したいと思います。当会で話し合った結果は以下の通りです。皆さんのご意見をメール、お手紙等でお寄せいただければ幸いです。

病院で緩和ケアを受ける



自宅で緩和ケアを受ける



- ①事前に家族と十分に話し合い、自分が緩和ケアホスピスケアを利用したいという強い希望をはっきり家族に表明し、できれば共感、賛同してもらい協力してもらうこと
- ②苦痛の軽減のためには県内で最寄りの緩和医療科のある総合病院を早くから利用し、末期になった際の同病院への入院、または他の病院の緩和ケア病棟への入院を想定し準備する。
- ③あくまで在宅死を望むのであれば、できるだけ早急に住んでいる地域での訪問診療システムを探し、訪問してくれる医師に十分な緩和ケアのスキルがあるかどうか確認しておくこと

「いのちの山河」再上映のお知らせ

2月12日(土)盛岡劇場メインホールにおいて、昨年度に続き映画「いのちの山河」再上映会を開催する予定です。この映画は、長く無医村であった岩手県沢内村(現・西和賀町)の「豪雪、多病、貧困」を克服し、生命尊重の理念を掲げ、老人と乳児の医療費無料で全国の先駆的存在となった故・深沢晟雄村長の実話ドキュメントです。

本県で初めて高齢化率50%を突破し、今年度より町から路線バスが全面撤退、町営温泉などの公共施設運営が困難となる等、相次ぐ受難続きの西和賀町ですが、全国に誇るべき過去の実績と、現在の超高齢社会を象徴するような苦悩する現在の西和賀町の姿から、多くのことを学べると思います。「いのち」に格差があってはならない」の言葉通り、がん患者さんや高齢者等社会的弱者が決して不幸になることなくとも助け合って生きていくために、本映画を見ながら今後超高齢社会において私たち一人一人にとって何が大切なのかを見極めることができれば幸いです。昨年は予想をはるかに上回る来場者のためコロナ禍もあり、数十名の方にやむなくお帰りいただいた経緯があり、多くの方の要望に応え準備を進めております。皆様のご来場をお待ちしております。



ミシガンタオル帽子の会のこと



今年9月6日、アメリカ合衆国ミシガン州タオル帽子の会から一通のメールをいただきました。

ミシガン州で活動していた同会が、会の集会所や提供先の患者への感染予防法等と様々な困難な状況から、活動を休止するとの連絡でした。

同州の病院ではコロナ対策が最優先であり、ミシガン州は南の州に比べるとコロナ患者は少ない方だが、それでもいつ緊急事態になるやもと言う状況で病院側はコロナ菌の侵入は絶対防止と言う体制。帽子も全て袋詰めが必要で、今年は殺菌してない帽子の受け付けはしないという状況。



同時に、日本人の方々も帰国、その他の事情でタオル帽子会参加者も減少しており、いったん活動を休止せざるを得ないので、これまでお世話になった岩手ホスピスの会に御礼と感謝をこめて、寄付をしたいとの申し出をいただき、ご送金いただきました。せっかく海の向こうとこちら側でお互いに活動し情報交換をしていたのに本当に残念です。

私たちも一日一日を大切に、一人でも多くの患者さんが笑顔になっていただけることを願いながら日本でもアメリカでも一日も早くコロナが収束することを願っています。

今ホスピスで何が起こっているか

医療従事者が患者や家族から受ける暴言や暴行が医療現場の課題となっている。

「ペイシエントハラスメント」と呼ばれ、厚生労働省も本年度から対策に乗り出した。ペイハラは医療従事者を追い込み、ただでさえ新型コロナウイルス対策で疲弊している現場を崩壊させかねない。専門家は患者との信頼関係の構築や、患者側の訴えの中身を見極めた組織的な対応が必要と指摘する

(西日本新聞 2021年9月11日)

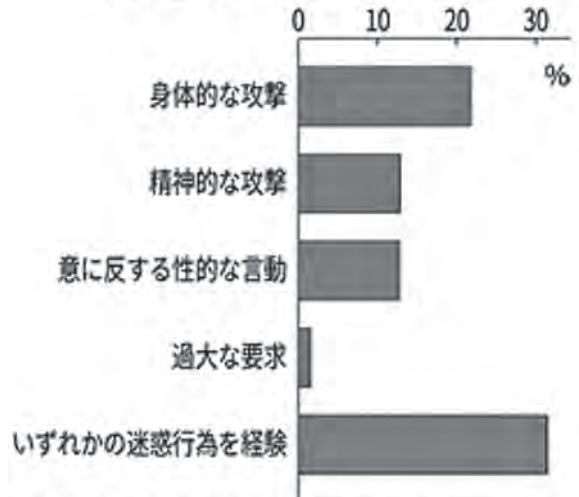
このペイシエントハラスメントが、ホスピス病棟でもコロナ禍の中で増加していると言われています。

コロナ感染を避けるために入院患者は家族との面会も困難になっておりその不満も一因となりホスピス病棟の看護師さん等に怒りをぶつけるケースがあるようですが、ホスピスで働く医療者の方々は私たち患者の痛みを取ってくれるかけがえのない重要な存在であり、その方たちがハラスメントにさらされ燃え尽き症候群等に陥ることは患者の立場からも何としても避けなければなりません。

宮城県のある患者会は地元のホスピスを応援するため毎年クリスマスにイルミネーションの飾り付け提供とクリスマスイベントの開催を行っています。

当会も早急にこの件に関して会として動きたいと考えております。

看護師らの3割が患者からの迷惑行為を経験している



(注)日本看護協会の調査をもとに作成

緩和ケア医師研修用動画作成



全国のがん診療連携拠点病院等で統一的なプログラムによる医療者への緩和ケア研修会が実施されています。私たち岩手ホスピスの会は、2016年からこの研修会で患者の声の代弁者として、医療者の方々に患者の思いを届けています。

昨年(2020年)は新型コロナウイルスの影響を受け開催できなかったが、今年(2021年)はリモートで開催できるよう、私たちがビデオカメラの前で思いを話し、それを緩和ケア研修担当のお医者様に撮影・編集していただき動画を作成していただきました。昨年はコロナ禍のため同研修会は中止、今年は当会が話したことを録画してお医者様たちに見ていただくことになり、岩手医科大学医学部緩和医療学科特任教授・木村祐輔先生に動画作成をしていただきました。



緩和ケア医師研修用動画作成作業

当会から2名参加して、がん患者の痛みに関わり添い緩和ケアを行って欲しいと願いを込めて話しました。

盛岡かたくりの会と合同で医療用ウィッグ購入費用 助成要望書を県内 17 市町村に発送

11月8日、盛岡市のがん患者会盛岡かたくりの会と当会の二団体は、医療用ウィッグ購入費用助成要望書を県内17市町村に発送しました。近年、がん患者の治療と就労、社会参加等の両立を支援し、療養生活の質の向上を図るため医療用ウィッグ購入の費用を一部助成する自治体が全国的に増えてきています。

岩手県では昨年度より、医療用ウィッグの購入費用助成を行う市町村に対して、県から事業費の補助を行う（市町村の補助額の2分の1を県が補助）のでぜひ利用して欲しいと呼び掛けており、現在、県内33の市町村のうち16市町村が購入費用の助成を行っております。

まだ助成を行っていない17市町村に向けて、「ぜひ実施に向けて早期に取り組んでいただければ幸いです」、と各市町村の担当課に文書でお願いしました。特に矢巾町、紫波町には近隣にがん患者さんの治療を多く行うがん診療連携拠点病院である岩手医科大学附属病院があり、矢巾町、紫波町に在住するがん患者さんにご家族のためにぜひ実施に向けて早期に取り組んでいただきたいと強調しました。



医療用ウィッグ

岩手県へ医療用乳房補正具購入費用への助成を要望



10月28日、盛岡市のがん患者会盛岡かたくりの会と当会の二団体は、岩手県保健福祉部医療政策室に医療用乳房補正具購入費用への補助制度実施を要望しました。

岩手県では令和2年度から「医療用ウィッグ」購入費用への補助制度実施を始めましたが、医療用補正具の中でも、「医療用乳房補正具」についてはまだまだ未実施の自治体が多い現状です。がんの治療には、様々な費用がかかります。「医療用乳房補正具」の購入費用補助の実施に向けて早期に取り組んでくださるようにと要望しました。

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2021年7月～11月)



当会のタオル帽子を受け取ったがん診療連携拠点病院から寄せられたメッセージをご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで105,000個に上っています。今日もどこかでタオル帽子の活動に思いを寄せている方がいます。帽子を作るボランティアの皆さんに深くお礼申し上げます。

*岩手ホスピスの会の皆様 メリークリスマス。タオル帽子が12月1日に届きました。たくさんのステキなプレゼントありがとうございます。私はがん相談支援センターの窓口で相談を受けていますが、このたびはタオル帽子を受け取って各部署に配布いたしました。どの部署でも患者さんからとても喜ばれているようで、「今年も届いたー。わー!きたきたー」などとスタッフの喜ぶ声も聞きました。今後も変わらず活動されるようお祈りいたします。
(茨城県)



*本日12月1日にタオル帽子を受け取りました。ありがとうございました。ご厚意に甘えていつもたくさん送っていただくのですが、患者さまに大変ご好評で、頂いてもすぐになくなってしまっているのが現状です。昨今コロナ感染拡大が落ち着いた?と思っていた矢先、変異株の脅威が出てきて、まだまだ油断ができません。だんだんと寒くなってまいりましたが、岩手ホスピスの会の更なるご活躍を応援申し上げますとともに、ご健康とご多幸を、遠い京都の空からお祈り申し上げます。
(京都府)



フェイスタオルご寄付のお願い

皆様にお願ひがあります。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルがとても不足しております。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひご協力をお願いいたします。

〈送付先〉 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31 岩手ホスピスの会宛

タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。申し込み方法：はがきかメールで。

※メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：〒031-0823 青森県八戸市湊高台6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」

これからのタオル帽子講習会・サロン日程

2月19日：タオル帽子講習会・サロン

3月19日：タオル帽子講習会・サロン

4月9日：タオル帽子講習会・サロン

●場所：盛岡市総合福祉センター

●開催時間：午後1時30分から

●問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願ひます。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

岩手県内各ホスピス現況

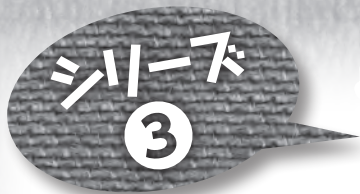
(岩手ホスピスの会調べ 詳細は

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	盛岡友愛病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	盛岡市永井 12-10
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111 (代表) 緩和ケア相談室 内線 338	019-638-2222 (代表) 医療相談室 緩和ケア担当 内線 185
病 床 数	10 床	22 床 (全室個室)	18 床
ベ ッ ド	無料個室 8 床 有料個室 2 床	無料 12 室 有料 10 室	個室 10 床のうち 9 床が有料 4 床室無料
ベ ッ ド 料	1 日 3,300 円	1 日 5,500 円・11,000 円	1 日 5,500 円
看 護 師 数	16 名 + 看護補助者 1 名	21 名 + 看護補助者 2 名	16 名 + 看護補助者 4 名
ホスピス医	米山幸宏	畠山元、旭博史	藤井祐次
看 護 師 長	栗木真由美	木下香代子	上山志鈴江
入 院 審 査 を 受 け る に は	医療福祉相談室にご相談ください。 月～水・金・土曜 9:00～17:00 木曜 9:00～12:30	緩和ケア相談室へお問い合わせ ください。 月～金曜 9:00～16:00	医療相談室まで。 019-638-2222 (代表) 月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:30 (第 2・4 土曜は不可)
審 査 日	随時	随時	随時
ホスピス入院 平均待機者数	0～3 名	0	0～2 名
ホスピス入院 平均待機期間	状況により数日～2 週間 重症者優先	外来受診後、平均 5 日	状況により数日～1 週間 (患者さん の意向を確認後、一般病棟で対応す る場合があります)
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとんど (8 割以上)	盛岡市周辺の方がほとんど	盛岡市周辺の方がほとんど
緩和ケア外来	診察日: 月～水・金 8:30～16:30 木・土 8:30～11:30 担当医: 米山幸宏	診察日: 火・水・木 14:30～16:00 要予約 担当医: 畠山元、旭博史	診察日: 水・木・金 (AM・PM) 要予約 担当医: 藤井祐次
ホスピスボ ランティアの 人 数 と 活 動	登録者 6 名 ※感染拡大防止のため休止中	病院ボランティア登録者 25 名。 うち 23 名がホスピスで活動。 ※現在、コロナの影響のため 休止中	年 1 回程度イベント時活動 ※現在、コロナの影響のため 休止中
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	名称: ひだまりの会 年 2 回開催 連絡先: 緩和ケア病棟 栗木 ※感染拡大防止のため休止中	ハナミズキの会 緩和ケア病棟 年 1 回開催 ※現在、コロナの影響のため 休止中	設置未定
入 院 料	定額制 (3 段階…診療報酬上の緩和ケア病 棟入院料に準じます) 保険適用	定額制です。 入院日数によって 3 段階での算定 です。	定額制。入院期間により 3 段階。 患者さんの自己負担額は加入してい る保険等により異なる。 各種医療保険適用、医療費の他に 食事代別途徴収。
ペットの同伴	面会可能。宿泊不可。要相談。	面会は可能。宿泊や飼育は不可	面会のみ可能。条件あり。 要申請。
麻 酔 医 と 携 帯	必要時可能	硬膜外ブロックなどを行う場合など に連携あり。	なし

(2021年12月現在)

各病院に直接お問合せ下さい)

岩手医科大学附属病院 緩和ケア病棟	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
紫波郡矢巾町医大通2丁目1番1号	一関市狐禅寺字大平17番地	北上市村崎野17地割10番地	奥州市水沢羽田町字水無沢495-2
019-613-7111 (代表) 緩和ケアセンター 内線 3223	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
25床	24床 (個室20、2床室2)	24床 (個室18、2床室3)	20床 (全室個室)
無料個室17床 有料個室8床	無料17床 有料7床	有料個室10床、無料室14床	無料20室
1日18,700～25,300円	1日3,190～6,490円	1日3,300～13,420円	無料
25名+看護補助者1名	18名+看護補助者1名	17名+補助3名	17名+ケースワーカー1名+看護補助者5名
木村祐輔、鴻巣正史、中村清華	平野拓司	星野彰、綿引奈苗	及川司
竹内可愛	田頭浩子	菊池恵美子	小林洋子
緩和ケアセンターに 相談ください。 019-613-7111 内線 3223 月～金曜 8:30～17:00	0191-23-3452 (入院相談等) がん相談支援センター 相談時間:平日8:30～17:15	0197-71-1511 (入院相談他) がん相談支援室 相談時間:平日9:00～16:00	入院相談 (担当:ケースワーカー) 後面談 入退院検討会 (医師、薬剤師、 栄養士、看護師、理学療法士 で構成)
随時	随時	随時	随時 (その後ベッドが空くまで待機)
0～3名	0	3～4名	0
状況により数日～1週間程度	数日 (緊急対応可)	待機期間は同院一般病棟や 近隣の病院、連携のとれている 訪問診療で対応	0
盛岡市周辺の方が多い	一関市周辺や宮城県北の方が ほとんど	花巻北上周辺の方が8割以上 その他は奥州、盛岡等	奥州市周辺の方がほとんど
診察日:月～金、要予約 担当医: 木村祐輔、鴻巣正史	診察日:月～金、要予約 担当医:平野拓司	診察日:月～金の午前、 要予約 担当医:星野彰	診察日:水、要予約 担当医:及川司
実績無し 活動検討中	ボランティアコーディネーター 1名、ボランティア12名 活動:ティータイム、季節の行事、 がん患者サロン (こころば)	登録者39名。 活動内容:お茶会・歌っこの会・ アロマ・生け花・季節のイベン ト企画	現在登録者5名で活動中。 ホスピスボランティアを 随時募集中
設置未定	偲ぶ会 (連絡先:緩和ケア病棟) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ 年1回開催	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ 年1回開催	しちせき 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ これまでに4回開催
定額制 (診療報酬上の緩和ケア病棟 入院料に準じて入院期間により 3段階) 保険適応	定額制 (入院期間により3段階) ただし、定額に含まれない加算 や有料個室の料金等は別途追 加になります。	定額制 (入院期間により3段階) ただし、定額に含まれない加算 や有料個室の料金等は別途追 加になります。	定額制 3段階になります。
面会のみ可能。宿泊不可。 条件有。要申請	要申請。ケージに入る小型犬 が望ましい。大型犬は要相談。	面会可能。宿泊不可	面会可能。宿泊不可
必要時可能	なし	院内ペインクリニックと連携	麻酔医が非常勤なので頻度は 少ない。



岩手のがん相談支援センター 岩手県立中央病院



相談の様子

県立中央病院 1階待合ホールテレビの横、医療相談室内に「がん相談支援センター」を設置しています。専任の相談スタッフ（医療ソーシャルワーカー、看護師）が、治療と療養生活に関する心配や困りごとについて、お話を伺い、一緒に考え、情報を探すお手伝いをしています。どんなことでも、どなたからでもご相談どうぞ。

〈どんな相談が出来るの?〉

「検診で要精密検査と通知が来ました、〇〇がん、かもしれない。受診はどうしたらいいですか?早く行った方がいいですよね…。何だか

パニックで。」「〇〇がんと言われて頭が真っ白…不安でいっぱいです。」「家族が〇〇がんで通院/入院中ですが…ちょっとご相談してみたくて。」「治療費が心配です。」「先生から病気、治療の説明を受けましたが、難しくてよくわかりません。」「テレビでやっていた最新治療、県内で受けられますか?」「セカンドオピニオンって?」「家族や仕事のことが気がかりです…。」「治療が一段落したら働きたいです(就活・就職・両立)。」「本人にどう接したらいいの?」「緩和ケアって何ですか?」等々

- ご相談は無料でプライバシー・秘密は厳守します
- ご相談内容が医師・看護師、地域の関係機関と連携が必要な場合は、ご了解を頂いた上で対応します
- ハローワーク盛岡との連携による就職支援も実施しております
- がんに関連する各種パンフレットをご用意しております(ご自由にお持ち帰りください)

どうぞご遠慮なくお声がけ・ご相談ください。

岩手県立中央病院がん相談支援センター

主査医療社会事業士 渡邊 純子



医療相談室入口

お問い合わせ先

岩手県立中央病院 がん相談支援センター(医療相談室内) 住所:盛岡市上田 1-4-1

電話:019-653-1151 内線 2118

対応日時:月曜日~金曜日:8時30分~17時15分(土・日・祝日、年末年始を除く)

ご利用方法:直接お越し頂くか、近くの職員にお申し出ください。電話でのご相談、予約も承ります。

がん患者さんのための栄養講座 パート 27

岩手県立胆沢病院 がん病態栄養専門管理栄養士 蛇口 真理子



寒い日が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。2020年は胆沢病院のある奥州市は豪雪に見舞われ大変な冬でした。寒さは仕方ないとしても雪はあまり降らなければいいなと天気を気にする日々です。

病院では外科病棟を担当しています。食道がんや胃がんの手術をした方によく嚙んで食事をするようにお話をしますが、もともと歯の欠損があり嚙むことが難しい方や治療の影響で顎骨壊死といいいあごの骨の組織や細胞が局所的に死滅し骨が腐った状態となり痛みのため咀嚼ができないという方もいます。嚙むことが難しい方の食事を伺うと、「野菜は嚙まないといけないからほとんど食べない」という声も聞きます。

今回は、野菜をポタージュにして、嚙まなくても野菜を摂取できる1品を紹介します。少し調理工程を省いて手軽に作れるようにしました。具材にごはんを入れることでとろみが出て喉ごしが滑らかになります。ポタージュは体が温まるので寒い日にご家族みんなで食べるにもぴったりです。

ブロッコリーポタージュ

1人前 107 kcal 材料は2人前です

材料(2人前)	分量	
ブロッコリー	150g	
玉ねぎ	1/2個(50g)	
A {	水	200ml
	コンソメ	小さじ1
ごはん	40g	
牛乳	150ml	
塩、こしょう	少々	

作り方

- ① ブロッコリーは一口大くらいに切る(茎も皮を剥いて入れる)。玉ねぎは繊維に沿ってスライスする。
- ② 鍋にアスパラ、玉ねぎ、Aの分量の水・コンソメ・ごはんを加えて、鍋に蓋をし、中火で10~12分材料が柔らかくなるまでに煮る。
- ③ ②をミキサーにかける。
- ④ 鍋に戻し、牛乳を加え、温めて、塩・こしょうで味を整える。出来上がり!



ちゅっくとアレンジ

《いろんな野菜で》

ブロッコリーを同量で、アスパラやかぶ、南瓜などお好きな野菜に変えて。

《牛乳が苦手な方》

牛乳を同じ分量で、豆乳に変える。

《化学療法中などで温かいもので吐気がする》

冷蔵庫で1~2時間冷やす。冷やすことで湯気による匂いが軽減できます。

《エネルギーアップ》

作り方②の時に、バター小さじ1/2を加える。

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2021年7月～12月

7月9日	第7回役員会、タオル帽子サロン・講習会、通信発送作業（盛岡市総合福祉センター、27名）
8月8日	第8回役員会、タオル帽子サロン・講習会（盛岡市総合福祉センター、25名）
8月28日	緩和ケア医師研修用動画作成（岩手医科大学附属病院、2名）
9月4日	第9回役員会、タオル帽子サロン・講習会（盛岡市総合福祉センター借用不可により延期）
9月9日	タオル帽子倉庫作業（盛岡市タオル帽子倉庫、7名）
9月17日	岩手県保健福祉部医療政策室に当会のがん対策の取組（2020～21年）を報告
9月25日	日総研出版の隔月刊情報誌「地域連携 入退院と在宅支援」11・12月号に、当会の活動を「がん患者・家族・医療者の相互支援で育む地域緩和ケア」と題して寄稿
10月2日	第9回役員会、タオル帽子サロン・講習会（盛岡市総合福祉センター、28名）
10月21日	岩手日報より「コロナが患者会活動にどう影響しているか」取材を受ける（盛岡市内、1名）
10月28日	医療用乳房補正具購入費用助成要望書提出（岩手県保健福祉部医療政策室、3名）
11月6日	第10回役員会、タオル帽子サロン・講習会（盛岡市総合福祉センター、28名）
11月8日	医療用ウィッグ購入費用助成要望書を県内17市町村に発送（盛岡市内、3名）
11月15日	日総研編集担当者と雑誌「地域連携」連載について打ち合わせ（盛岡市内、2名）
11月20日	全国の拠点病院へタオル帽子クリスマスプレゼント発送（タオル帽子倉庫、8名）
12月11日	第11回役員会、タオル帽子サロン・講習会（盛岡市総合福祉センター、29名）
12月14日	岩手県医療政策室に「岩手県におけるがん対策に関する意見等」を提出（盛岡市内、2名）
12月17日	盛岡二高タオル帽子講習会開催（盛岡市盛岡第二高等学校、39名）

「岩手ホスピスの会」がん相談窓口



開設日	毎月第2土曜日 午後1時30分～4時（月により変更あり。要問合せ） 相談無料
場所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子サロン会場（月により変更あり）
内容	電話相談：がん全般についての相談に対応致します。 直接面談：上記会場に来院して頂き対応 ※事前にお電話いただければ、相談内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	岩手ホスピスの会 090-2604-7918

新年度継続とご支援のお願い

（年会費が一口2,000円になりました）

皆様からのあたたかなご寄付、ご支援をいつも本当にありがとうございます。

岩手ホスピスの会が、がん患者さんやご家族に寄り添い活動できる支えは、皆様のご支援によるものです。今後も安定した活動を継続するため、ご理解とご支援をお願いいたします。

2022年度会費（2022年1月～2022年12月分）を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上お振込みをお願いいたします。

ご住所の変更があった方はご連絡をお願いします。

年会費：2,000円（複数口可） 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会